

新年あけましておめでとうございます。

日ごろは、地域公共交通の維持・発展、交通職場の処遇改善にむけ、強力に運動を推し進めていただいていることに敬意と感謝の意を表します。

長期化するコロナ禍において地域公共交通事業は、「移動の制限」と「必要な移動の提供」の狭間で、車内の消毒・換気等の対策に加え、可能な限りの運行体制により、地域住民の移動を確保するという役割を果たしてきました。この災禍が地域公共交通に及ぼした影響は甚大であり、本部都市交評は今後も国会・関係省庁への要請など必要な対策に取り組んでまいります。

こうした状況に加え、高齢化と就業人口の減少が進む中、交通事業に従事することへの魅力を高めることとあわせ、エッセンシャルワーカーとして、女性を含む若年層の定着化対策が今後ますます重要になってくるものと考えられます。

公共交通の衰退は、その地域に市民が住み続けることができるかどうかということにつながる問題と位置づけ、クロスセクター効果が発揮できるよう自治労運動にしっかりと根付かせることが重要です。

ともにがんばりましょう。

自治労都市公共交通評議会
議長 福田 智